

毎日新聞寄附講座「ジャーナリズムの現在Ⅱ」

第10回 「被災者・難民のためにできること～写真記者の経験から」

2006年12月12日

毎日新聞東京社会部・佐藤賢二郎

①これまでの取材した海外の被災地

- (1) 9・11後のアフガン難民、避難民取材(2001年～02年)
- (2) チャドでのスーダン難民取材(2004年)
- (3) スマトラ沖大津波でのインドネシア取材(2005年)
- (4) パキスタン大地震取材(2005年、06年)

②取材中に感じたこと、考えたこと

- (1) 何のために撮るのか。現場で感じた無力感、限界。(アフガン難民)
- (2) 現場に「慣れる」ということ。既視感をどう排除するか。(スーダン難民)
- (3) 伝え続けること、同じ現場で変化のある取材対象を見つけることの難しさ。
- (4) 「不幸」とは何か。豊かさの基準、価値観の違い。(パキスタン地震)

③記者にとっての被災者支援

- (1) 記事、写真を通して読者に呼びかけ、集めた義援金の行方。取材者の葛藤。
- (2) 「撮るべきか、助けるべきか」という問いへの自分なりの答え。

④記者にできることは何か

- (1) 他媒体の影響増に対し、新聞にしかできないこと。
- (2) 客観か主観か。読者に伝わる記事、写真とは。
- (3) カメラマンから記者へ。取材現場で考えること。

以上